

「所信表明」に示される麻生内閣の政治的性格 —— 天皇主義極右親米・平和憲法破壊内閣

大方の予想通り、麻生太郎政権が誕生した。自民党総裁選を盛り上げ、麻生がそのプロセスをへて首相になり、自民党人気を回復させ、総選挙へ一気に突入する。この自民党全体の画策した路線は、マスコミの全面協力下の総裁戦イベントで、その思惑どおりに進展するかにみえたが、どっこい、そうはいかない状況になりつつある。低所得者向け（サブプライム）住宅ローン問題に端を発したアメリカの金融不安はさらに拡大し、世界恐慌へ向かう様相を呈しだし、日本国内の日常生活品の値上げラッシュの状況を直撃し、庶民の経済不安はさらに強まっている。そして、有害米の大量販売という恐るべき事態は、自民党政権への人びとの不信の念をさらに強化させている。

「規制緩和」という口当たりのいい言葉をバールにした多国籍企業のための小泉「構造改革」が人びとの社会生活をいたるところで破壊し続けてきた事実、今、やっと人びとは大きく気づきだしているのだ。

ゆえに経済対策を何もせずそのまま総選挙とは行きかね、補正予算の審議だけはすませたいという姿勢を麻生首相は示しだしている。ところが、「単一民族日本」だの「成田農民ゴネ得」だの、さらに「日教組つぶせ」発言で暴力団右翼体質をむき出しにして早々と辞任に追い込まれた中山成彬国交相の問題が急浮上、極右政権という政治的性格がもたらす、安倍政権同様のグラつきが早くもはじまった。

マスコミは、この問題についてキチンと論じていないが、麻生自体が極右翼であることは明白である（「単一民族」発言は以前の麻生自身の言葉である）。9月29日の所信表明演説で、まず彼は、こう語りだしている。

「わたくし麻生太郎、この度、国権の最高機関による指名、かしこくも、御名御璽をいただき、第92代内閣総理大臣に就任いたしました。／わたしの前に、58人の総理が列しておいでです。118年になんなんとする、憲政の大河があります」。

「臣」麻生太郎宣言である。この首相は、「現人神」天皇を主権者とする大日本帝国憲法下の首相と、「国民主権」（日本国憲法）下の首相と区別せず、一つの流れと位置づけて平然としているのだ。歴代の戦後の首相で、こんな所信表明をした人間はいないはずなのに、どうして問題にする声がマスコミにはまったく不在なのだろう。首相には憲法を守る義務がある。こんな憲法否定の発言をスタートの時点で公言させている人物の言葉を、ただ紹介しているだけのマスコミは、どうかしているのだ。

麻生の「お友だち」内閣は、極右天皇主義政権としての政治的性格をあらわにしているのである。私たちは、まずこのことに注目しておかなければなるまい。

「所信表明」の内容については、「日米同盟の強化。これが常に第一であります」という発言にも注目しておくべきである。

「極右親米」内閣という政治性格にこそ着目すべきなのである。

「海上自衛隊によるインド洋での補給支援活動を、わたしは、我が国が、我が国の国益をかけ、我が国自身のためにしてきたものと考えてきました。テロとの闘いは、まだ到底出口が見えてまいりません。尊い犠牲を出しながら、幾多の国々はアフガニスタンへの関わりを、むしろ増やそうとしております。この時に当たって、国際社会の一員たる日本が、活動から手を引く選択はあり得ません」。

麻生もまた「アメリカのポチ」であり、日本の派兵（軍事）国家化を加速し、平和憲法を破壊せんとしている首相なのである。ゆえに麻生は「集団的自衛権」の行使は「合憲」という政治主張をも公然と口にしているのだ。総選挙の後でも存在しつづける内閣であるかどうかは不明であるが、麻生内閣が平和憲法破壊内閣であることは、まちがいないのだ。

（天野恵一／事務局）

▶『血と骨』の梁石日原作、『亡国のイージス』の阪本順治監督・脚本、『闇の子供たち』を観た。タイを舞台にした子どもの人身売買が主題だ。「売春宿」へ、そして臓器移植へ子どもたちが売られ、日本人と白人が買う。マフィアが金を動かし権力者も甘い汁を吸う。▶これは、アジアを金と性欲で支配しアメリカには生殺与奪権を握られている、その両方への自己嫌悪から、一方で悪の告発と正義の実現へ、他方で自虐と自死へ促さ

憲
喧
譁
愕

れる「日本の男たち」を描いた映画である（だから女についてはチョー単純描写！）。けれども、これは同時にフィクションである。フィクションをドキュメンタリー様に見せ（後ろの客たちが漏らしていたが）、「これぞ真実」と思わせる。そう思わせるのは映画の罪か、どんな深刻な映画を観てもお手軽に「真実」と思い込める観客の罪か——現実が多面的で、どんな映画でも描ききることにはできないのに。

（あ）

「7.18 県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」にご協力を!!

7月18日に沖縄県議会は「名護市辺野古沿岸域への新基地建設に反対する決議」を可決した。新基地建設は、基地の過重な負担と固定化につながる、県民が一貫して反対してきた、名護市民も反対の意思を明確にしている、県が「自然環境の保全に関する指針」で「評価ランク1」に分類する辺野古海域はジュゴンを始めとする希少生物をはぐくみ新たなサンゴ群落が見つかる世界にも類を見ない美しい海域で、後世に残し引き継ぐことこそが沖縄県民の責務である、と訴えた。

一方、辺野古現地では、座り込みが1600日を超え、環境アセスメントの現況調査と称する不当な作業の中止を海上で訴え監視する厳しい闘いが続いている。

そんな中で、私たち「辺野古への基地建設を許さない実行委員会」は、「7.18県議会決議を尊重し、辺野古新基地建設の断念を求める請願署名」を開始した。国会・内閣に県議会決議の尊重と辺野古新基地建設中止を訴えるとともに、署名活動を通じて辺野古基地建設の愚を多くの人に伝えるために。

2人の世襲議員が2年続けて政権を投げ出すなど、自公政権が末期的症状を示しているにもかかわらず、3年前に日米政府が合意した「日米同盟：未来のための変革と再編」は、粛々と進められている。ミサイル防衛も、横須賀港への原子力空母配備も進められている。補助金による締め付けにより、

岩国と座間の首長の同意も取り付けられた。

今こそ、辺野古住民の生活を守れ、沖縄の美しい自然を破壊するな、過去60年以上と同様に未来の半世紀以上恒久的に米軍基地が使用され続け基地強化が続けられることを許すな、ベトナム戦争・アフガン攻撃・イラク攻撃のように米国の侵略戦争をわれわれが手伝い続けるのはまっぴらだ、という全国の声を衆議院総選挙後の国会と内閣に強く突きつきたい。(木村雅夫／辺野古への基地建設を許さない実行委員会)

【署名集約】2008年12月31日

【国会提出予定】2009年1月

【呼びかけ団体・署名集約先】辺野古への基地建設を許さない実行委員会

郵送：東京都千代田区三崎町2-2-13-502 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック気付

Fax(郵送困難な場合)：03-3234-4118(市民のひろば)

メール：henoko.jitu.2004@gmail.com(件名：辺野古新基地建設断念署名。名前、住所、メールアドレスを明記)

【お願い】署名への記入はボールペンまたはサインペンで。

【問い合わせ】090-3910-4140 または「市民のひろば」(03-5275-5989 木曜夜のみ)

10・19 反貧困世直しイッキ! 大集会◇垣根を越えてつながろう!!

反貧困ネットワーク(代表：宇都宮健児)は2007年3月に最初の集会を開催し、それまで問題とされてこなかった、日本国内の貧困問題の解決を求めて、困窮者を支援する団体、シングルマザーの当事者団体、既存の組合である連合・全労連、インディーズ系のユニオン、障害者団体、研究者、弁護士などさまざまな人が集まってできたネットワークである。

その少し前から、マスコミでもネットカフェ難民や、困窮フリーターなどの問題、生活保護申請拒否などが取り上げられ始めたのとあいまって、日本の貧困問題は大きな注目を浴び始めている。

2007年7月の参議院選挙でも、貧困問題は隠れた争点となった。その後、生活保護の基準引き下げを先延ばしさせ、グッドウィルのデータ装備費の追及、名ばかり管理職の問題、シングルマザーの児童扶養手当の削減凍結など、反貧困ネットにかかわる団体が次々に成果も上げてきている。昨年7月の反貧困大集会700人、今年3月の反貧困フェスタ1,600人と参加人数も増え続けている。

さて衆議院選挙直前になるであろう10月19日、明治公園でさらに大きく大集会を行なうこととなった。この日は7月から各地で反貧困キャラバン集会が開かれた最終ゴールでもあり、世の中に反貧困の声をさらに大きく響かせ、選挙に影響を与えたいという意図がある。

当日は全体会に続き、労働、社会保障、女性、子ども、住まい、多重債務、死刑など16のテーマの分科会が開かれ、貧困問題を多様な角度から話し、パフォーマンスする。そして、

労働者派遣法と社会保障費2,200億円問題を焦点にしながら、デモを行なう予定だ。

屋台も出る。フリマ、バザーもある。反貧困は楽しく、ビジュアルにやらずにちゃ! ということで準備が進んでいる。

ちなみに私たちは女性と貧困分科会を用意している。オトコが貧しいなんていうけど、オンナのほうがひどく貧乏だ! なんとかしろ! というわけだ(9月28日にも集会を開催して人が溢れてしまった)。

10年前、秘かに進行していた、労働権の破壊。これほどまでに食べられない時代がくるとはだれも思っていなかっただろう。でもこれは現実である。若い男が真面目に働いても食べられない時代、ましてやシングル女性も、シングルマザーも、大変で、その貧困は再生産されてしまっている。貧困は人権の問題なのである。貧困と戦争の問題についてもさまざまな議論が起こっている。

ぜひ参加してほしい。私たちが尊厳を持って生きられる社会をつくるということは、憲法が要請していることそのもののなのだから。(赤石千衣子／反貧困ネット副代表)

.....

10月19日(日)

東京・明治公園

13:30 開会

17:00 パレード出発

詳細について:

<http://www.k5.dion.ne.jp/~hinky/ikki2008.html>



第3回 浅草ウオーク 10月19日(日)

◇「武器」はもういない! 「人間」が大切にされる社会をめざして、歩きます◇

東京大空襲被害者、原爆の被害者、平和を願う市民が手を取り合い、戦争被害者への「差別なき償い」と「分かち合える平和」を求めて一緒に歩いた第1回の浅草ウオークから今年で3年。昨年は重慶爆撃訴訟の支援者、被害者、中国残留孤児の方々も参加しました。

空襲や原爆などで多くの市民が戦争被害を受けたにもかかわらず、日本政府は軍人やその遺族軍属のみに特別な補償を行い、しかも階級が高かった人ほど多くもらえるしくみになっています。私たちの税金は空襲被害者、被爆者、中国残留孤児、軍人でもシベリア抑留者などの兵士、アジアをはじめ日本が加害してしまった人々への償いや和解のために使われていません。私たちは、このような戦後補償のゆがみを正し、すべての人々が「分かち合える平和」と「戦後補償の実現」を通して、二度と戦争をくり返さない社会の創造をめざして今年も「浅草ウオーク」を実施します。

昨年从今年にかけて原爆症認定集団訴訟をはじめ、戦後補償に関わる裁判や運動に大きな進展がありました。また、自衛隊のイラク派兵違憲名古屋高裁判決では、画期的な司法判断もくだされました。平和を求める市民と戦争被害の粘り強い運動が世論と政治や社会を動かしつつあります。

10月19日の第3回浅草ウオークで、私たちは、4つの目標を掲げて歩きます。

1. 戦争体験を伝え、受け継いでいくこと

2. すべての戦争被害者、遺族に差別なき償いを実現すること

3. すべての戦争被害者、遺族は連帯すること

4. 憲法9条に示された戦争放棄の精神を生かし、誰も戦争による被害者にも加害者にもならない世界を作っていくこと

武器の強さを競い合うより、大切なのは、隣りの「あなた」と言葉を交わし、一人ひとりが幸せに生きられる社会を作ること。そのための一歩を一緒に歩いてみませんか。

(西田和子/浅草ウオーク実行委員)

.....

集会: 10月19日(日) 13:30~15:00/台東区民会館9階
ウオーク: 15:30 出発(集合場所: 花川戸公園[台東区民会館斜め向かい])

ウオークルート: 花川戸公園ー一言問通りー国際通りー浅草通りー吾妻橋付近で解散

主催: 浅草ウオーク実行委員会

(電話/Fax: 03-3616-2338)

HP: <http://1021asakusa.nobody.jp/>

カンパ振込先: 郵便振替口座 00170-3-336176

浅草ウオーク実行委員会

☆賛同人を募集しています!

連絡先・電子メール: asakusa_walk@yahoo.co.jp

報告◆臨時国会開会日に「5・3憲法集会実行委」が院内集会

第170臨時国会召集日にあたる9月24日午後3時半から、衆院第2議員会館で「08年5・3憲法集会実行委員会」が主催して「第170臨時国会 院内集会」が開かれた。スローガンは「アフガン戦争に加担するための『インド洋派兵給油新法』を延長するな」「自衛隊をインド洋とイラクからすぐもどせ!」「憲法9条を破壊する『自衛隊海外派兵恒久法』はいらない」「憲法改悪のための憲法審査会を始動させるな」。この集会には120人が参加した。

実行委員会を代表してあいさつを行った高田健さんが「昨年の通常国会では安倍内閣が改憲手続き法を強行成立させ、憲法問題が大きな焦点になったが、今回の自民党総裁選では憲法についていっさい語られていない。しかし自民党総裁に選ばれた麻生太郎は日本会議国会議員連盟を作った幹部の1人だ」と警告を発した。

続いてこの院内集会に参加した国会議員からの発言。社民党党首の福島みずほ参院議員は「利権政治、小泉構造改革、戦争に加担する政治からの決別が必要だ。アフガンistanでは状況がますますひどくなっており、日本のNGOの若者が殺される事態になっている。憲法審査会については形式的には作られているが、1年経ってしままだに始動していない。審査会を動かさないことが必要だ」と訴えた。

共産党の穀田恵二・国対委員長(衆院議員)は、「解散・総

選挙が迫っている。汚染米問題をふくめて憲法を暮らしに生かすことをめざして闘っている。自民党総裁選の五人の候補のいずれもインド洋での自衛隊の洋上給油の継続を主張した。継続させない闘いを」と強調した。無所属の糸数慶子参院議員は、新たな基地を作らせず、後期高齢者医療制度の撤廃や沖縄戦記述に関する教科書検定意見の撤回をめざす闘いを中心にした沖縄の動きについて力強く語りかけた。

国会議員の発言に続いて日本国際ボランティアセンター(JVC)アフガニスタン代表の長谷部貴俊さんがアフガニスタン報告を行った。長谷部さんは、「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」によれば、2006年には戦闘での民間人犠牲者は929人だったが、2007年には1,633人に増加しており、米軍・NATO軍の空爆による死者も321人と前年比3倍になっている、と指摘した。長谷部さんは、NGOの活動めきにはアフガニスタンでの人道危機と復興のニーズは満たされないと訴え、「アフガニスタンでは安倍元首相の辞任時に一般市民もインド洋での自衛隊の給油活動を知りになり、日本の平和的イメージが低下している。日本政府は軍事ではない平和的アプローチによる支援の追求を」と主張した。

最後に、実行委員会を構成する各団体が発言し、今後の活動を誓いあった。(国富建治/事務局)

報告◆日朝国交正常化実現へ！ピョンヤン宣言6周年集会

「制裁を解除し日朝正常化早期実現へ！ 平壤宣言6周年集会」が9月13日、東京・文京区民センターで行われ、市民の力で日朝国交正常化のプロセスを加速させていこうと呼びかけた。「制裁を解除し日朝正常化早期実現へ！ 9・17キャンペーン」の主催で行われた集会には、110人の市民が参加した。

集会では、はじめに渡辺が主催者あいさつ。平壤宣言は65年日韓条約とは異なり積極的な内容を持っている。発表から6年が経つが、日朝関係は依然として改善されておらず、市民が声をあげていかなければならないと強調した。

続いて、朝鮮女性と連帯する日本婦人連絡会の清水澄子代表が講演した。8月の訪朝報告に続き日朝国交正常化の課題について語った清水代表は、平和をまもる主体は市民たちだとしながら、市民らが世論と政治を動かして平壤宣言を履行させ、東北アジアの平和を実現させていきたいと述べた。

集会では各分野で活動する人士らによる報告が行われた。

NPO法人・同胞法律生活センターの金東鶴部長（在日本朝鮮人人権協会理事）は日本政府の対北朝鮮「制裁」が在日朝鮮人の生活にどのように悪影響を及ぼしているかについて事例を挙げて報告。「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク（バウネット・ジャパン）の西野瑠美子共同代表は北朝鮮にいる日本軍「慰安婦」被害者の現況について述べた。

また、平和フォーラムと市民団体で新たに立ち上げた「東

北アジアに非核・平和の確立を！ 日朝国交正常化を求める連絡会」の石坂浩一事務局長は、同連絡会の目標、結成過程などについて報告。許すな！ 憲法改悪・市民連絡会の高田健さんは「市民の力で日朝国交正常化早期実現を」という呼びかけを支持する立場から、そのために市民の主体力を強めていく必要があると強調した。

閉会のあいさつをした在日韓国民民主統一連合（韓統連）の宋世一事務総長は、市民が日朝国交正常化と平和構築の主体となって、これを実現させていこうと呼びかけた

現在、対北朝鮮制裁が10月13日に期限切れを迎えるが、福田前首相の政権投げ出しで誕生した麻生新政権は、誕生間もなく4度目の制裁延長を閣議決定したと報じられている。拉致問題担当相だった中山恭子氏の連れ合いである中山成彬・国交相がトンデモ発言を繰り返しわずか5日で辞任に追い込まれたが、この新政権で、事務方トップの内閣官房副長官に安倍政権時代、朝鮮総聯への弾圧を繰り返してきた張本人である漆間巖・元警察庁長官が就任していることも、麻生新政権の性格を示している。

「9・17キャンペーン」は、制裁延長に反対する麻生政権への申入れをはじめ、引き続き取り組みを強化することにしており、ご協力をお願いしたい。

（渡辺健樹／日韓民衆連帯全国ネットワーク）

◆憲法を読む◆

『戦争は教室から始まる——元軍国少女・北村小夜が語る』

（「日の丸・君が代」強制に反対する神奈川の会 編／現代書館／1700円＋税）

編者の「神奈川の会」の人たちだけでなく周囲の者も親しみをこめて「小夜さん」と呼ぶ北村小夜さんの「知と力を引き継ぐために」、同会が6回にわたり企画・実現した同名の連続講座の記録（ていねいに補遺されたという）である。

ほぼ「昭和」とともに生きてきたという小夜さんが、強烈な軍国教育を受けて従軍看護婦として戦争に参加した経験の反省として、1950年から教壇に立ち35年間、この国の公教育のなかで思索し、実践し、闘いつづけたなかからの強いメッセージとなっている。

修身と道徳／音楽 歌い継がれる戦争の歌／障害者教育／勤評・学力テスト／学校行事 日の丸、君が代、天皇制／軍国少女を生きて、の順で、小夜さんが集められた貴重な資料とともに語られるが、一つ一つのテーマは現在に至る重大な問題を孕んでいて、教師・小夜さんが直接関わり、闘ってきた軌跡なのだと知れる。そしてまさに「戦争は教室から始まる」ことがここに証言されている。

この講座の趣意、編纂の趣意が前書き、あとがきにあるが、よく尽くしてこの書の貴重さが理解される。80歳を超された小夜さんが信念、経験をよく整理、収斂されて力よく語られていることへの驚嘆を共有する思いがする。編纂の事情で本の厚さをだす必要があったのだろうが、各項ごとに関係者（？）の感想がついている。読後の自由な発想を妨げ

られるようで、挟雑物なしに著者にまっすぐ向かいかったと、ちょっと惜しまれる。

公教育が国家から荷わされている課題は、明治初年に教育令が発せられたときから重大な問題を孕んできたが、敗戦を挟んで一層巧妙になった文部省の意図する国策の強制は、一介の教師の振り上げた拳を螳螂の斧として踏み潰してきた。学校の実態を知らない国民のおおよそは、子どもの通過地点としか捉えないが、教室は、成績競争に一喜一憂している間にいつのまにか坂道を転がるように「戦争ができる国民づくり」の最前線となってきている。麻生内閣の閣僚の大半が「文教族」であることの恐ろしさが現状をはっきりさせている。この書の編者が「権力乱用三昧の支配者たちは、（略）弱者切り捨ての『規制緩和』と従順な大衆づくりの『天皇制・愛国主義』をブルドーザーの両輪に据えて、あちこちにつくられていて邪魔な『戦後の畑』を片っ端から壊しにかかってきた」と、教育の場を畑にたとえて述べているが、小夜さんがずっと種蒔き、草取りに営々と尽くしてきた姿がこの書から浮かびでてくる。にもかかわらず、直近の某大臣の発言内容のお粗末さには唾然を通り越して暗澹たる思いに暮れる。

しかし、多くの人に読んでもらいたい。特にこれから教師になろうとしている人、子どもを学校に入れる親たちに読んでほしい。

（梶川凉子／反改憲通信事務局）

反改憲ニュースクリップ

08年9月23日～10月3日

麻生内閣発足

「失言」と金融危機の迷走のなか総選挙へ

【9月23日】〈仏メディアの反応〉麻生新総裁誕生に関する仏メディアの報道は、麻生が日本の政治、軍事的影響力の強化を狙う「ナショナリスト」との見方で一致している。右派系のフィガロから大衆紙のパリジャン、左派系のリベラシオンまで麻生をナショナリストと紹介。中国に対する「断固」とした態度を例に挙げている。自民党の総裁選で4人の対立候補を引き離して圧倒的多数で選出されたのは、近く実施される見通しの総選挙を国民の人気の高い麻生の下で戦いたいとの議員の思惑があったからだ、との分析でも一致している。ルモンド紙は幼年時代の安倍晋三前首相が祖父の岸信介元首相に抱かれていた一族の大型写真を掲載。「政治は家族の事件」との見出しで日本政治の「閥閥主義」ぶりを強調。安倍も福田康夫首相も小泉純一郎元首相も親や祖父が政治家だったことを紹介している。

【9月24日】〈世論調査〉朝日新聞社の全国世論調査によると、内閣支持率は48%、不支持率は36%だった。支持率は、福田内閣後半の20%台と比べると大きく回復したが、安倍内閣発足時の63%、福田内閣発足時の53%を下回った。

【9月25日】〈米メディアの反応〉同日付「ニューヨーク・タイムズ」が、麻生首相について、中韓両国との関係を悪化させた「けんか好きな国粋主義者」と断じる社説を掲載。社説は、麻生が外相時代、「戦前の日本の植民地化政策の成果を賞賛し、旧日本軍による残虐行為を正当化する一方、中国を危険な軍事的脅威だと述べた」と主張。首相として「近隣諸国を対等に扱う必要がある」と注文を付けた。さらに、日米関係についても触れ、「米国は、帝国主義の幻想でアジア中を怒らせるような日本政府を必要としているのではない」などと指摘。同紙は06年2月にも、当時外相だった麻生を「外交感覚も歴史感覚もおかしい」などと批判し、日本政府が抗議したことがある。〈ジョージワシントン来港〉米原子力空母ジョージワシントンが米海軍横須賀基地に入港。ジョージワシントン入港に合わせ平和団体や労働団体が抗議行動を展開。〈死刑問題〉森法相は法務省で開かれた就任会見で、死刑執行について「粛々と実施することが妥当」と述べた。さらに「鳩山元大臣の考えに共感する。法の定めに従って行う死刑執行が大臣のキャラクターで左右されるのはどうかと思う。一つのメカニズムみたいなものができて適正にできればより望ましい」との考えも示した。

【9月27日】〈中山発言〉就任3日後に大臣を辞任(10月4日には国会議員引退を表明)した中山国交相の発言。「日教組の問題については言いたいことがある。日本では様々な犯罪が起こっている。もうけるためならうそを言ってもいい、子

殺しとか親殺しとか、これが日本だろうか。かつての日本人はどこに行ってしまったのか。これは教育に問題があった。特に日教組。全員ではないが、過激な一部が考えられないような行動を取っている」。「教育基本法改正の時も、毎日、何百人という先生が国会議事堂を取り巻いていた。『改悪反対、改悪反対』。いったい先生方、子供たちをどうしたいのか、との思いを強くした。国旗・国歌についても教えない。何より問題なのは、道徳教育に反対していることだ。何とか日教組を解体しなきゃいかん」。「民主党を解体せよ」。「日教組は民主党の最大の支持母体。社保庁の労働組合もそうだ。民主党が『政権よこせ』と言っているが、日教組や社保庁という働き手なくとも給料がもらえる官公労の職員に支援してもらっている民主党が、政権を取ったらどうなるのか。私はこれから日教組を解体する。小泉さん流に言えば『日教組をぶっ壊せ』。この運動の先頭に立つ」。

【9月29日】〈米軍再編〉米軍再編に伴う在沖米海兵隊のグアム移転に関連する報告書で、グアムに移転してくる米海兵隊は、一時配備を除き8,620人とされている。従来計画でも言及していた「航空部隊」については、米本国や普天間飛行場に配備されている「海兵中型ヘリ飛行隊」と記載したが、在沖の部隊かどうかは明記していない。

【9月30日】〈大東亜戦争〉麻生首相が首相官邸で記者団から過去の戦争観を問われ、「日清、日露戦争と、いわゆる大東亜戦争、第2次世界大戦とは少し種類が違うと思う」と語った。麻生は「明治憲法以来約120年。時代を振り返って、日本の歴史として誇れる歴史もあれば、誇れない歴史もある」との考えを示した。〈集団的自衛権〉麻生首相は首相官邸で自民党の中山太郎憲法審議会議長らと会談。中山は、首相が集団的自衛権の行使を禁じた政府の憲法解釈を変更する必要性に言及したことについて、国会で議論すべき問題だと指摘。首相は「国会に設置されている憲法審査会を早く動かして、与野党一体となって国民のために議論してほしい」と要求。

【10月2日】〈情報漏えい〉中国の潜水艦の動向を報じた読売新聞の記事に絡み、防衛省情報本部の防衛秘密を漏らした疑いがあるとして、自衛隊法違反容疑で書類送検された元同本部電波部課長の北住英樹1等空佐を懲戒免職処分。防衛上の秘密の漏えいを巡っては、駐日ロシア武官のスパイ事件やイージス艦の機密情報流出事件などで、過去に4件6人の自衛官が免職になっているが、報道に関して免職されるのは初めて。読売新聞は「知る権利」を制約すると遺憾を表明。

【10月3日】〈海上警備行動〉政府が日本人計1,600人余りが乗る豪華客船2隻がアフリカ・ソマリア沖を通過する際、海賊に襲撃される危険性が高いとして、インド洋での給油活動で展開していた海上自衛隊の護衛艦に「海上警備行動」の発令を検討していたことが判明。最終的には首相官邸側の「民間客船の護衛は、給油活動が目的の新テロ対策特別措置法の想定外」との判断で見送られ、政府は米英海軍に支援を要請。〈スーダンPKO〉政府が閣議で、国連平和維持活動協法に基づき、スーダン南部に展開するPKO部隊「国連スーダン派遣団」の司令部への自衛官派遣に関する実施計画を決定した。派遣は10月中下旬の予定。

私も一言 73

池内文平 (劇団「独火星」)

ぼくの知りあいに荒井真一という美術家がいる、裕仁天皇が死亡するずっと以前から憲法を手玉にとったパフォーマンスをしていた。「日本国憲法」を朗読する声が淡々と流れるなか、ハダカになった彼が、水か油かペンキを体中に塗りたくり、のたうち、文字で書かれた憲法条項をむしゃむしゃと食ってしまうというものだった。

パフォーマンスは行為そのものなので、そこに意味や喩を求めてもしかたがないのだが、それでも観る者に意味や喩を妄想させてしまう(!)のもまたパフォーマンスの凄み

なのだ。

で、つまり、この場合のそれは憲法の「身体化」なのである。身にまとうのではなく噛み砕き飲み込んで身体の内側に引き入れるのだ。たとえばぼくらが「水平社宣言」に心を動かされるのは、被差別民が被った歴史的・社会的事実を引きうけて身体から発した言葉だからで、単に書かれた文言が美しいからではない。それと同じようにこの憲法の文言も身体化されてはじめて生きた言葉として語りあえるようになる。——そんな感じ(いまのところぼくにとって日本国憲法は、外から叩き込まれた1条～8条以外は、そうはなっていないので)。

世界中に「憲法」がいくつあるか知らないけど、きっと植民地主義との闘いの末に勝ちとられたものも多い筈だ。憲法がたとえその国のありかたを説明するものであるとしても、国家概念を抜け出してお互いに共鳴しあう部分もたくさんあるに違いない。そうしたカケラの輝きのひとつに、ぼくらの身体化された憲法も、妄想ではなく、ぜひそうしたいと思う。

集会・行動情報 10/11～10/19

▶ 10/11 (土) 『アメリカばんざい』上映&トーク
◆18:25～◆ひと・まち交流館京都(3階/第4・第5会議室/京都市下京区河原町五条下がる東側) ◆1000円◆主: ピースムーブメント実行委員会(アムネスティ京都グループ 090-2359-9278)

■これ以上アフガニстанを忘れないために～伊藤さん殺害事件を受けて◆西垣敬子、岡真理、奥本京子、前田朗◆14:00～◆ドーンセンター大会議室(京阪・地下鉄谷町線天満橋駅1番出口より東へ350m) ◆1000円◆主: RAWAと連帯する会・関西(072-987-3832)

■世界死刑廃止デー企画シンポジウム◆13:00～◆新宿区角筈区民ホール(京王線初台駅東口徒歩10分) ◆1000円◆主: 死刑廃止国際条約の批准を求めるFORUM90(03-3585-2331)

■世界死刑廃止デー企画デモ◆17:30～◆新宿中央公園水の広場◆主: アムネスティ・インターナショナル日本(03-3518-6777)

▶ 10/12 (日) 死刑廃止!! 殺すな!! 105人デモ◆12:30～◆南堀江公園(大阪市営地下鉄千日前線桜川駅下車5番出口徒歩3分) ◆主: かたつむりの会

■「平和なくして労働なし! NO PEACE NO WORK! ～反戦ストライキに立ち上がる米港湾労働者」上映◆14:00～◆子どもみらい館(京都市地下鉄丸太町駅下車徒歩3分) ◆1000円◆主: イラク平和テレビ局 in Japan(06-6762-0996)

■「あきらめない—— 続・君が代不起立」長崎上映会◆

14:00～◆長崎県勤労福祉会館3F◆主: 長崎労組交流センター(準)(095-826-7812)

■市民の平和講座・第1回「軍隊のない国家から見えてきた9条」◆前田朗◆10:00～◆向日市民会館・第2会議室(向日町競輪場向かい) ◆500円◆主: 無防備平和都市条例をめざす向日市民の会(090-8384-5984)

▶ 10/17 (金) 「あきらめない—— 続・君が代不起立」さいたま上映会◆18:30～◆埼玉県労働会館4F第六会議室(JR北浦和駅西口徒歩5分) ◆800円◆主: 根津さん河原井さんの「君が代」解雇をさせない会・埼玉(048-874-3338)

▶ 10/18 (土) 市民憲法講座: 東アジアの平和、日韓の市民にできること—— 韓国からの視点◆李俊揆◆18:30～◆文京区民センター 3C会議室◆800円◆主: 許すな! 憲法改悪・市民連絡会(03-3221-4668)

▶ 10/19 (日) 反貧困・世直しイッキ! 大集会◆13:00～◆明治公園(JR千駄ヶ谷駅徒歩7分) ◆参加無料・雨天決行◆主: 反貧困ネットワーク(03-6431-0390)

■第3回浅草ウォーク◆13:30～◆台東区民会館 → 詳細は3面の記事参照

■このままでええの?! 日本と世界 10.19反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都◆13:30～16:30◆円山公園野外音楽堂(京都市東山区) ◆講演: 佐高信/反戦ライブ: 豊田勇造バンド、趙博/現場・各地からの報告・アピールなど◆入場無料◆終了後デモ◆主: 同実行委員会(電話/Fax: 0774-23-2908)

事務局から～

◆ぜひ定期購読を! 年間定期購読費用(第4期: 2008年6月～2009年5月/月2回発行/24号分)は4000円です。郵便振替口座をご利用ください。

◆本紙事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。